

本講座が開発したファブリー病のハイリスク・スクリーニングとそれに続く確定診断のシステム（「研究活動」の項目 2. 「ファブリー病のハイリスク・スクリーニングと診断システムの構築」を御参照下さい）を用いて、全国の大学や病院からの依頼により、約 2 年間で、1,195 検体の解析が行われ、19 名のファブリー病患者さんが見つかりました。この診断システムは早期治療のために役立つと期待されます。